

日本のサイバーセキュリティを「連携」「学び」「創造」

ご挨拶

データベースセキュリティWG リーダー 大澤 清吾, CISSP
(日本オラクル株式会社)

JNSA データベースセキュリティWG

WGの活動目的

リーダー：大澤 清吾（日本オラクル株式会社）

「情報」は「人・モノ・カネ」に続く「第四の見える経営資源」と言われ、DXの推進やクラウド、AIの発展により、企業は高度な技術とデータの活用を進めています。そのため、**情報を格納するデータベースの重要性は増えています。**

過去二十数年を振り返ると、外部からの不正アクセスに加えて、内部不正による情報漏洩により、ネットワークを中心とした境界防御型の対策だけでは防ぎきれない状況が見受けられます。また、近年はランサムウェア攻撃により、データの暗号化や破壊が事業継続に影響与えており、**従来の「機密性（Confidentiality）」の保護に加え、事業継続のためには「可用性（Availability）」の保護も不可欠**となっています。

データベースのスタンダードな技術仕様や実践的な実装手法を検討するとともに、「**内部不正」「クラウドセキュリティ」「ランサムウェア**」などに関連するデータの取扱いや**技術交流、調査研究**を行います。

※ 2005年より任意団体「データベース・セキュリティ・コンソーシアム（DBSC）」として活動しておりましたが、さらに活動範囲を広げるため、JNSAに合流し、調査研究部会のワーキンググループとして活動を開始しました

過去の教訓、未来の防衛： 企業がとるべきクラウド・セキュリティ対策とデータ保護

本日のセミナーの内容

サイバー攻撃の脅威が日々進化する中、多くの企業は「**事件が起きてから対処する**」後手の対応に陥っています。本セミナーでは、過去の教訓を活かし、未来のセキュリティ対策をどのように強化すべきかを探ります。

サイバー攻撃の歴史を紐解きながら、企業が陥りやすいセキュリティの落とし穴を明らかにします。また、内部不正や人的ミスを含む実際の**セキュリティ事故**を分析し、**企業が取るべき具体的なデータ保護策**を明らかにします。さらに、**主要クラウドサービス（AWS・OCI・Azure・Google Cloud）におけるデータベースセキュリティの実践的な対応策**もお伝えします。

「事件駆動型」から脱却し、能動的かつ効果的なセキュリティ戦略を構築するためのヒントを得られる内容をご紹介します。

本日の内容

時間	プログラム
14:00-14:05	開会のご挨拶 データベースセキュリティワーキンググループ リーダー 大澤 清吾
14:05-14:35	【基調講演】『事件駆動型セキュリティ』から脱却するための戦略とは？ 立命館大学 情報理工学部 教授 上原 哲太郎 氏
14:35-14:50	データベースセキュリティワーキンググループ 概要と本年度活動について データベースセキュリティワーキンググループ リーダー 大澤 清吾
14:50-15:20	サイバー戦国絵巻 ～技術と社会の攻防史～ 日本オラクル株式会社 リャン ジェニー ルウ 氏
15:20-15:35	休憩
15:35-16:05	セキュリティ事故の原因と対策：過去の教訓を現代に活かす 日本電気株式会社 山口 夏来 氏
16:05-16:35	データを守る！クラウドDBセキュリティ要件対応ガイド - AWS・OCI・Azure・Google Cloudの活用術 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 村山 佳子 氏
16:35-16:40	おわりに デロイトトーマツサイバー合同会社 北野 晴人 氏

JNSA